

いわて自然公園特派員だより(岩手県自然保護課)

場所：八幡平の冬期コース標示

令和6年2月4日(日)・11日(日) 情報提供(文、写真)岡野 治



霧氷林内(標高1250m付近・2月4日)



竹竿運搬(標高1450m付近・2月4日)

岩手・秋田県境部にある八幡平では綺麗な樹氷原が広がります。冬期は、秋田八幡平スキー場から登るコースがメインコースですが、どこでも歩ける雪原はコースが不明瞭となるので、地元の鹿角市山岳会では、冬期コース誘導のための竹竿等による目印設置を行っています。小生は3回目(2月4日)、4回目(2月11日)の作業に参加しました。標高1500mの田代沼から藤助森、山頂を経由して陵雲荘までの区間に竹竿を設置し、秋田八幡平スキー場から陵雲荘までの目印設置が完了しました(竹竿は30~40m間隔で設置)。



竹竿設置(山頂~陵雲荘間・2月11日)



山頂付近の樹氷(2月11日)

両日とも上部は雪雲の中でしたが、時々薄日が射し風も八幡平としては弱風で、作業は順調に行えたものの、光の当たらない樹氷原では綺麗な写真は撮れませんでした。

暖冬で、樹氷の出来はあまり良くないようです。山頂西側の藤助森手前から山頂間は樹氷原となっていたものの、樹氷は痩せ気味でした。陵雲荘付近まで下がると、枝葉も現れて樹氷の出来は70%~80%でした。積雪は例年より少なく風も弱かったようで、樹氷間のウネ(溝)は小さく、歩きやすかったです。



八幡沼畔の陵雲荘前(2月11日)



陵雲荘西側の樹氷原(2月11日)